

教への庭から

昨年の12月7日に、ビッグハート出雲で、「生命のメッセージ展」が開催されました。アートという手段を通して、理不尽に奪われた命の重み、大切さを伝えようと、交通事故、犯罪、いじめによる自殺等の犠牲者の等身大の人型パネルと遺品の靴を展示する「生命のメッセージ展」。企画展の代表を務める鈴木共子さんは、ネイティブ・アメリカンの「死者は無力ではない」という言葉を知った時、思わず大きくうなずいたと話します。

自然と共生し、スピリット(魂)を大切にするネイティブ・アメリカンたちの生き方は、現代社会を生きる私たちにとっても学べるべきことがたくさんあります。心に響く言葉を多く残している中から、いくつか紹介します。

死者は無力ではない

出雲市斐川町・仁照寺住職 江角 弘道

「死者は無力ではない」の言葉にあるように、鈴木娘からの生命のメッセーの言葉の他に、「死は存在しない。生きる世界が変わるだけだ」という言葉もありました。「死者は生きているものに力と助言をさずける」「私たちや、私たちを取り巻く環境は皆、自然

の言葉にあるように、鈴木娘からの生命のメッセー「死は存在しない。生きる世界が変わるだけだ」という言葉もありました。「死者は生きているものに力と助言をさずける」「私たちや、私たちを取り巻く環境は皆、自然

の言葉にあるように、鈴木娘からの生命のメッセー「死は存在しない。生きる世界が変わるだけだ」という言葉もありました。「死者は生きているものに力と助言をさずける」「私たちや、私たちを取り巻く環境は皆、自然

挿絵 平尾恵郷



界の一部である。すべてが命のつながりの中で生きていて、互いが互いを必要としている。環境を大事にすることは、自分自身を大事にすることなのだ」などがあります。

ネイティブ・アメリカン演題はいつも「亡くなったわたしたちのメッセー」

・学生たちの感想文からは、命の大切さが分かり、自分には加害者にならないという誓いがあります。死者が生徒・学生たちの考えに大きな影響を与えていること、つ